

平成 22 年 5 月 20 日現在

研究種目：若手(B)
研究期間：2007～2011
課題番号：19700634
研究課題名(和文)学習者の道德意識や情報知識を考慮に入れた情報モラル体験学習教材の開発と授業実践
研究課題名(英文)A development of an instructional method of learning material for information ethics: focusing on high and low ability learners of moral consciousness and information technology knowledge
研究代表者
梅田 恭子(UMEDA KYOKO)
愛知教育大学・教育学部・准教授
研究者番号：70345940

研究分野：科学教育・教育工学
科研費の分科・細目：教育工学
キーワード：マルチメディアと教育・情報モラル

1. 研究計画の概要

本研究の目的は、生徒の道德意識や情報知識を考慮に入れた授業用補助教材としての情報モラル体験学習教材とその指導方略の開発である。この研究では、時間的制約を考慮した効果的、効率的な指導法の開発を試みている。尚、本研究の対象は、高校生・大学生である。

研究の進め方は次の通りである。まず、(1)生徒の前提知識や教える項目の分析を行い、指導方略や教材を開発する。次に、(2)それらを用いた授業実践を行う。最後に(3)実践から得られた結果をもとに改善を行い、また上記(1)に戻る。つまり、開発的・実践的・試行的な研究である。

2. 研究の進捗状況

2007年度から2009年度まで毎年2回ずつ計4回の実践を行い、指導方略の検討や教材の開発の改善をしている。尚、2008年度後半から2009年度前半は産前産後休暇・育児休業のため研究は中断していた。

(1)1年次(2007年度)の成果

まず、計画の1年目として、以下の2つについて行った。

体験学習教材用の課題分析

情報モラルの指導法や指導所の調査、分析により、本研究では、玉田・松田(2004)があげた「法律違反」「他人への迷惑」「自分への被害」「情報技術」の4つを枠組みを学ぶべき学習項目と決定した。これらを教材化する際には、ゴールベースシナリオ理論を用いることとした。

2回の授業実践と評価、改善

上記に基づいて、教材開発を行い、授業実践を県内の高等学校において7月に行った。この結果、新規課題において全ての項目で事前調査より点数が高くなり、一定の効果は認められた。しかし、特に道德知識を学ばせる問題に対して反復練習が必要であることがわかった。これらを改善し、12月にも授業実践を行った。この結果、新規問題だけでなく、発展問題に対しても対応できるようになり、改善の結果が見られた。しかし、情報技術に関わる問題については、明確な答えが出なかった。

尚、これらの結果を、研究会にて発表し、紀要にまとめた。

(2)2年次(2008,2009年度)の成果

計画の2年目として、1年目の実践で疑問となった情報技術に関する問題について調べるための調査を2回の授業実践を通して行った。その結果、次のことが明らかになった。

- ・情報知識と、教科「情報」の知識には相関がある。つまり、教科「情報」で学んだことを取り入れて、情報モラルの指導法を検討してはどうか。
- ・一方で、情報知識の高低だけでは学習者を分類することは難しく、道徳的な規範知識もいれなければならない。

これらの結果を、全国大会で発表し、紀要にまとめた。尚、全国大会での発表(下記5. 代表的な研究成果 学会発表)は、研究奨励賞を受賞した。

今後はこれらの課題を受けた教材を開発し研究を進めていく予定である。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

当初の予定通り、分析・提案と、実践・評価を繰り返しながら、実践的に情報モラルの指導方略を開発している。

4. 今後の研究の推進方策

今後も開発だけにとどまらず、実践を行い、得られた結果を反映させながら、指導方略や教材の開発を行っていく予定である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

梅田恭子・江島徹郎・野崎浩成、情報技術の知識の高低を考慮した情報モラル指導方略の提案、愛知教育大学研究報告、Vol59 p175-179, 2010 (査読無)

<http://hdl.handle.net/10424/2934>

梅田恭子・江島徹郎・野崎浩成、情報モラル判断の枠組みを学習するゴールベースシナリオ理論に基づく教材の開発と授業実践、愛知教育大学教育実践センター紀要、Vol11 p67-72, 2008 (査読無)

<http://hdl.handle.net/10424/88>

〔学会発表〕(計2件)

梅田恭子、情報技術の知識の高低を考慮に入れた情報モラル学習教材の提案、教育システム情報学会 第34回全国大会、2009年8月20日、名古屋大学

梅田恭子、情報モラルの4つの判断観点をを用いた体験学習教材の開発と実践、教育システム情報学会 研究会、2008年7月26日、愛知教育大学

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕